

14歳の誓い堂々と

熊谷の立志式で夢語る 吉岡中

三三三
学校発
三三三
元服だより
三三三

昔の「元服」にあたる14歳の生徒たちが自分を見つめ、将来の夢や希望を誓う立志式が18日、熊谷市立吉岡中学校(沼尻慎一校長、生徒数147人)で開かれた。2年生58人が大人への一步を踏み出し、体育館のステージに登壇。保護者や1年生が見守る中、漢字1文字に込めた思いを堂々とスピーチした。

同校は2008年、学校行事として立志式を導入。3年生の卒業後、学校を引っ張っていく2年生に自覚を持ってもらう目的も兼ね、吉岡地区青少年健全育成大会の中で実施している。



立志式で将来の夢や希望を誓う生徒たち—熊谷市立吉岡中学校

生徒たちは脇のボードに漢字1文字の書を張って演説に臨んだ。「すぐ諦めるところを克服したい」という中島鈴

菜さんは「続の文字を掲示。テニスの試合や勉強で露呈した弱点に向き合い、これから迎える受験では「自信を持ってやり遂げたい」と決意を述べた。

「遊」の文字を選んだのは黒田将平さん。ゲームが好きで、将来は「ゲームに関する仕事がしたい」という。人気職種のため、人並み以上の勉強が必要であることも承知の上。それでも、「僕が作ったゲームでみんなを楽しませたい」と夢を語った。

会場は厳かな雰囲気にも包まれ、緊張のあまり言葉に詰まる生徒も。保護者は子どもの晴れ舞台を記録しようとビデオカメラを回し、1年生も先輩たちの雄姿を真剣な表情で見つめていた。

生徒たちのスピーチを聞いた沼尻校長は「力強い立志の誓い、頼もしく感じた。皆さんは先輩たちが築いてきた伝統を受け継いだ。これからの人生の活躍を期待したい」とエールを送った。

(橋本浩佑)